

## 【年間指導計画例作成にあたって】

- 年間指導計画の再編成を行うにあたり、螺旋的・反復的に指導する指導事項にかかる教材・単元を精選・削減すること、または、それぞれの単元での指導事項や学習活動等を精選・圧縮することが考えられる。本プランでは、国語科として学年配当漢字の習得等を考慮し、各単元の配當時数を調整して圧縮する案を示した。活用する際には、各学校が育成を目指す資質・能力を踏まえ、単元に軽重をかけて検討することが望まれる。
- 休業中の動画配信を含めた家庭学習を見込み、前年度3月と年度初め4・5月の学習内容に関する配當時数は減らしている。加えて、言葉の特徴や使い方に関する事項、例えば「漢字の広場」など漢字の読みと書きに関する事項については、休業中及び通常の家庭学習での習熟が可能であると考え、補充を見込み配當時数を減らしている。
- 今後の社会情勢によって、さらに休業が増える事態となったときには、教材・単元の精選・削減を行う。学校での授業で行う言語活動と家庭学習でできることを検討し、全体のバランスを考えて再編成する。
- 年間指導計画例を基に、各学校の行事や他教科等の学習内容に合わせ、効果的に教材や単元を扱う時期を検討することで、さらなる時数削減が可能になる。国語科の3領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の関連を図る単元構成によっても、時数削減につなげることができる。各校での実践において、学校・学年・学級で創意工夫し、効果的な単元構成の提案を期待する。
- 年間指導計画の教材・単元及び時数の一覧に加え、〔思考力、判断力、表現力等〕の3領域、〔知識及び技能〕の指導事項を年間通して整理することが必要となる。各学年の国語科カリキュラムについては、本市国語研究会の実践事例集の中で系統的な指導が分かるように提示する。（横浜市小学校国語教育研究会編著『「見方・考え方」を働かせる実践事例&プラン』参照）